言語文化研究科

学位プログラム：　言語社会
授与する学位：　博士（言語文化学）

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語社会」では以下のとおり教育目標を定めています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

世界の諸言語とそれを基底とする社会と文化に関する理論と実践にわたる教授・研究を通じて、世界の言語圏についての最先端の高度な専門性と深い学識を身につけ新たな学問的な知見を提起する能力を備えた人材を育成します。

○高度な教養

既存の学問領域を越え、世界の諸言語とそれを基底とする社会と文化の全体像を理解するのに求められる異文化理解についての高度な教養を備え、その方法論に習熟し、異文化を複眼的、立体的に捉え、多角的に評価できる人材を育てます。

○高度な国際性

世界の諸言語について、高度な言語運用能力をもち、微妙なニュアンスの違いを理解し、異文化間の豊かなコミュニケーションを実らせることのできる人材を育てます。

○高度なデザインカ

世界の言語とそれを基底とする社会と文化についての深い学識、異文化理解についての幅広い教養と高度な言語運用能力を基礎に、世界の言語や社会・文化の成り立ちと現況に鋭い洞察力をもつとともに、現代世界が直面する新しい多様な課題を提起し、解決の道筋を創造的に構想できる力を備えた人材を育てます。

○独自の教育目標

専攻する言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）について、四技能（読む、聞く、話す、書く）にわたって高い言語運用能力をもち、高度な学問的内容をもつ長い文章や発表などを理解し、複雑な新たな学問的知見についても流暢に表現する能力を涵養する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「言語社会」は、世界の言語とそれを基底とする社会・文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・国際性・デザイン力を身につけ、所定の研究プログラムに従って定められた単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。博士後期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に博士（言語文化学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・専攻する地域の言語について、最先端の高度な専門性と深い学識を身につけている。
・専攻する地域の文化事象について、最先端の高度な専門性と深い学識を身につけている。
・専攻する地域の歴史社会について、最先端の高度な専門性と深い学識を身につけている。

○高度な教養

・世界の言語、文化、社会について既存の学問分野を越えた学際的で幅広い知識を有している。
・異文化の言語・文化の全体像を理解するための方法について、既存の学問分野を越えた学際的で幅広い学識と知見を身につけている。

○高度な国際性

・高度な外国語の運用能力を駆使して、言語や文化の壁を越え異なる文化を深く理解できる。
・高度な外国語の運用能力を駆使して、言語や文化の壁を越えて交流することができる。

○高度なデザイン力（研究科）

・世界の言語、文化、社会が直面する新たな本質的かつ複雑多様な課題を発見できる。
・グローバルな視野に立って、世界が直面する課題について、多面的柔軟に考えることができる。
・専攻語の能力と、言語圏についての深い学識を活用し、的確なデータ・文献資料収集を通して世界が直面する問題の道筋を構想できる能力を身につけている。

○独自の学習目標

・専攻する言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）について、四技能（読む、聞く、話す、書く）にわたって高い言語運用能力を有し、新しい学問的知見について発表し自在に討論ができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学のおよび言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「言語社会」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行われます。

＜教育課程の編成の考え方＞

学位プログラム「言語社会」は、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識や技能を涵養するために、体系的で多様な科目を開設し、学位論文の作成に関する指導を行います。

1. 専攻科目： 専攻する言語圏の先端的な知識を身につけるための授業科目群。（広域対照言語論特別研究、アジア・アフリカ言語構造論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、アジア・アフリカ言語社会論特別研究等）
2. 地域言語社会特論：専攻する言語圏の言語と文化の特定のテーマに関する先端的研究を行う授業科目群。（世界文学・文化論、現代英米政治外交史特殊研究、アジア・アフリカ言語社会研究序説、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説等）
3. 複合領域特論（多様な学問領域にまたがるテーマを研究する授業科目群。（現代ジャーナリズム論、言語文化資源の活用と情報処理研究、通訳翻訳学特講等）

学生は、専攻科目を基軸とし、これらの科目群を体系的に履修し、所定の研究指導プログラムに従って、各専攻言語の教員を中心にした３名の教員の指導の下に、中間発表、学会発表、最終発表を行い、博士論文を作成します。

＜学修内容及び学修方法＞

授業の形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れ、各専門教育科目の教授内容に合わせ、講義、演習等の多様な手法で行われる。

＜学修成果の評価方法＞

学修の成果は、各専門科目のシラバスなどに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程のカリキュラム・マップ

［科目概要］

1．専攻科目
専攻する言語圏の先端的な知識を身につけるための授業科目群（科目ごとに複数の授業を開設）

2．地域言語社会特論
専攻する言語圏の言語と文化の特定のテーマに関する先端的研究を行う授業科目群

3．複合領域特論
多様な学問領域にまたがるテーマを研究する授業科目群

※指導教員と相談の上，上記から８単位以上を修得

博士（言語文化学）の学位授与

論文審査及び最終試験に合格

高度なデザイン力　博士論文の作成

○授業科目

最先端かつ高度な専門性と深い教養

高度な国際性

独自の教育目標

高度な教養

１．専攻科目

広域対照言語論特別研究

アジア・アフリカ言語構造論特別研究

ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究

アジア・アフリカ文化表象論特別研究

ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究

アジア・アフリカ言語社会論特別研究

ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究

２．地域言語社会特論

外国語教授学習研究
世界文学・文化論
現代英米政治外交史特殊研究
アジア・アフリカ言語社会研究序説
ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説
アジア言語動態論
英米言語社会論
アジア地域社会論

３．複合領域特論

現代ジャーナリズム論
生涯学習論
ヨーロッパ比較文化動態論
広域イスラム社会論
地政学的研究特論
言語文化資源の活用と情報処理研究
通訳翻訳学特講
多言語共生社会演習

○研究指導プログラム

⑧博士論文題目の提出（Ｄ３）

⑦最終発表会（Ｄ３）

⑥第２次中間発表会（Ｄ２）

⑤博士論文テーマ，論文概要の提出（Ｄ２）

④予備審査面接（Ｄ２）

③第１次中間発表会（Ｄ１）

②博士論文構想の提出（Ｄ１）

①博士論文執筆計画書の提出（Ｄ１）

学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績執筆